

令和3年度第2回千葉市文化芸術振興会議議事録

市民局生活文化スポーツ部文化振興課

1 日時

令和3年10月14日（木） 午前10時00分～

2 開催場所

千葉市中央コミュニティセンター 8階 83・84会議室

3 出席者

（委員）神野委員長、椎原委員、関委員、瀬崎委員、廣崎委員、藤田委員、桜井委員、谷委員

（事務局）神田生活文化スポーツ部長、小名木文化振興課長、川口文化振興課長補佐、榎本管理班主査、安藤主任主事

4 議題

（1）第2次千葉市文化芸術振興計画年次報告書について（令和2年度実施状況）

（2）令和3年度評価対象事業の選定について

（3）市民会館の整備方針について

5 議事の概要

（1）第2次千葉市文化芸術振興計画年次報告書について（令和2年度実施状況）

第2次千葉市文化芸術振興計画年次報告書について年次報告書の報告と意見交換を行った。

（2）令和3年度評価対象事業の選定について

令和3年度評価対象事業の選定にあたり意見交換・選定を行った。

（3）市民会館の整備方針について

市民会館の整備方針について意見交換を行った。

<事務局説明>

【神野委員長】

みなさんおはようございます。朝の早い時間からお忙しいところありがとうございます。

今年はオリンピック・パラリンピックが開催されて、千葉市で文化プログラムとして計画されていた、千の葉の芸術祭を1年遅れで開催することになり、無事終了することが出来ました。ありがとうございました。

それでは、本日の千葉市文化芸術振興会議の議題の方に入りたいと思います。先ほどご説明いただいたように、3つございます。その最初の議題1、第2次千葉市文化芸術振興計画年次報告書、令和2年度実施状況、令和3年度実施計画について進めたいと思います。

こちらについてまず事務局の方から説明をお願いします。

<事務局説明>

【神野委員長】

ありがとうございました。

ただいま事務局から説明があった内容について、何か質問等がありましたらよろしくお願ひいたします。

私の方からは、もう一度評価の数をお願いします。

【事務局】

令和2年度はAが3事業、B評価が36事業、C評価が26事業、達成度なしが45事業となっております。

【神野委員長】

それでは、机上配布で、皆さん今見ていただいて、私の方から質問させていただきます。

実施中止になったものに関しても、達成度なしではなくてCになっているものがありますが、これは何か考え方として、実施しなかったが、それまでのプロセスの中である程度、何か経過があったから、Cという評価なのか、実施の有無が判断点ということであったら、評価できないという事で達成度なしでも良いのかと思ひますが、Cと達成度なしの棲み分けは何かあるのでしょうか。

【事務局】

実施できない場合は達成度なしですが、Cにするか達成度なしにするかは所管にお任せしております。

【神野委員長】

文化振興課が所管している市民芸術祭が、中止であるが評価がCというのは、所管課としてどう考えていますか。

【事務局】

市民芸術祭につきましては、全体的なものとしては中止扱いになりますが、一部実施した部分がありますので、達成度なしという形にできないので、Cという評価にいたしました。

【神野委員長】

わかりました。

【廣崎委員】

コロナ禍の大変な時期の実施となったのですが、市の方から、各団体・各所管の方に実施方法について、何か指示などされていたのでしょうか

【事務局】

各団体・各所管の方に実施方法はお任せしておりました。

【廣崎委員】

コロナの蔓延防止では、市の色々な基準が変わった。それを見据えてご自分たちで判断したということですね。

【谷委員】

この報告書は最終的にどこかに掲載されるのでしょうか。

【事務局】

ホームページで掲載いたします。

【谷委員】

事務局の仕事を増やすことを求めているわけではなく、意見として申し上げたいのですが、去年、今年と、コロナ禍の中で不測の事態や、予期せぬことが多くあったと思います。

こちらに書かれているものを何個か拝見したところ、すごく皆さんご苦労されて、このような形になったということは感じられました。

本来の目的とは違うのかもしれませんが、まだしばらく、コロナ禍の影響が続くかもしれない中で、一つ一つの、取り組みで得られたご苦労とか、実施できたという教訓のようなものを、事業者の方、アーティストの方、色々なところに繋げて活用できればいいと思います。これだけ整理されている資料は、貴重な財産のように思えます。

【椎原委員】

芸術文化新人賞のA評価というのは、推薦件数が増えていけば、Aの指標として適当なのでしょうか。

ただ推薦件数が増えればよいということであれば、関連団体にどんどん推薦してくださいと言えば、推薦件数が増えるでしょう。

推薦件数が増えることによって、例えば、活性化したとか、そのような視点がない状態でA評価と言われると違和感があります。

【事務局】

本市の新人賞は自薦が多く、昨年度は39件と例年にない程多い件数でした。その前年が12件程度と、大幅に下がっておりましてので、件数が大幅に伸びたことを、評価いたしました。

おっしゃる通り、件数が増えることで、活性化したかといわれると、なんとも判断しがたいところではございます。

【神野委員長】

例えば、自粛せざるをえなくて、時間ができたから、書類作りましたということもあるかもしれないと。

それが、評価の判断となるかというとなかなか難しく、椎原委員がおっしゃったように、例えば今まで出してこないジャンルから出てきた、あるいは文化振興課の方で、積極的な広報を行い、結果があらわれたとなどがあれば、Aでいい気はします。

何かそのあたりの取り組みはありましたか。

【事務局】

広報の強化はいたしましたので、そちらで応募数が伸びたと思っております。

【神野委員長】

広報の工夫により増えたなど、書かれているだけでも全然違うと思います。

【谷委員】

アーティストの方たちのアピールの場が減っており、活躍の場が求められているので、件数が伸びたのではないかと思います。今の時流では納得できる現象かなと思います。

【神野委員長】

積極的なご提案となりますが、コロナ禍の中で、活動の機会が奪われてしまった人たちで、千葉市で何か発表の機会を得たいという人が新人賞に応募されたと思います。

このコロナ禍ではこの枠を、広く活動機会を与えるためのものとして、行政としては難しいと思うのですが、柔軟な対応をしていただけたらと思います。

【事務局】

いただいたご提案になじむものかどうかわかりませんが、活躍の場の提供として、ホールの無償貸し出しなどを行いました。

【神野委員長】

状況の変化に応じたサポートの体制も引き続き考えていただけたらと思います。

今回のコロナの影響で、従来の形での実践が難しいということを経験したことによって、今までのやり方にとらわれない動きがあったと思うのですが、具体的に所管にヒアリングなどされましたか。

【事務局】

特にヒアリングなどは行っていません。

【神野委員長】

先ほど谷委員の方から、色々な取組み、成果、工夫などを集約することにも繋がると思うのですが、時代も変化して行って、価値観も多様化する中で、コロナがネガティブな存在ではありますが、何かそれをプラスに転換する仕組みというものを考えていただけると良いと思います。

【事務局】

特徴的な取組みは、庁内のネットワークで共有できますので、共有できるようにしたいと思います。

【椎原委員】

今、オンラインで実施したものをAにするという話が出ていますけれども、生で聞く体験というのはもちろん素晴らしい体験ですが、オンラインという新しい体験っていうのが出てきて、美術館のワークショップなどでも実施されました。

オンライン化には予算がかかりますが、これを一つのレガシーとして、残していける方向があってもいいと思います。

私の属している学会でも、実は全国大会が先日終わったのですが、非常に参加者が多かったです。例年であれば、分科会に毎回30人程度参加ですが、100人くらい参加していました。

みなさんながらで参加していると思うので、なかなか意見交換は活発にはなりませんでしたが、確かに新しいコミュニケーションは成立したと思います。

今後、各部署に関しても新しい方式っていうものを コロナだからではなく、考えていただけたらなと思います。

【神野委員長】

リアルがすごく大事であるってことはありつつも、椎原委員がおっしゃった、空間的な距離を埋めるっていうことに非常に向いていて、関心はあるが、実際そこまで行くことが難しい方にとっては、実はありがたい状況で、学会の参加者のことは、多分すべての事業で言えることですよ。特に千葉はすごく広いので。

そういった意味では、コロナ後もそれを積極的に生かす部分が残っていくといいと思います。

【廣崎委員】

主催者としてしましては、ノウハウがないとすごく難しく、自分ができないから発注するとなると何十万もかかります。

今後、コロナとか収束することを願っていますが、オンラインのわかる方にノウハウを伺える事ができるなら、ありがたいと思います。

【神野委員長】

オンライン開催の為の入門講座のようなものでしょうか。プロ用の機材を使わなくてもできるレベルのものから、かなり幅はあるので、初歩的なものであれば、スマホでもできるという発見もあると思いますので、ニーズがあると思います。

【谷委員】

市がやることなので、無料でというのを押し付けるわけにはいかないと思いますが、市民にはオンラインのリテラシーの高い方は結構いらっしゃると思います。ボランティアとしてお手伝いして下さる人のストックを持つことは、千葉市ぐらいの市であれば、やれないことはないと思います。

オリンピックを見ていて、水泳で1位になった選手の脇に画面が置いてあって、リアルタイムで家族が手を振るのが映るという、昔のオリンピックでは無かった光景がありました。

今後ますますそういう事をやっていくチャンスがあるのではないかと思います。

【瀬崎委員】

音楽の分野でいえば、一番密を気にする場が、アウトリーチです。小さな子供たちが集まる教育の場で触れ合う機会と、もう一つは、福祉のお年寄りの方などが触れ合う機会です。

元々どこにも行けない人が、芸術に触れて心を開放するチャンスを失うという、人と接することが、外部の刺激ではなくて、飢えてしまうというか、何か他の方法を模索すると同時に生の貴重さも体験する機会になったと思うので。

反対にそうじゃない方の必要性をどう模索していくかをみんなで考えていく必要があると思います。

ホールやその分野の会場が活用されないと、そこで働いている方々の生活が成りゆかないという実態も含めて、地域を越えて連携をとって、皆で助け合っていくっていう事がすごく大切になってきていると思います。

【神野委員長】

色々な人が孤立していたり、世代によっても、やれることやれない事が違う中で、どうやって必要な人たちに必要なものを届けられるかっていうことを、今回の事をきっかけにして、色々な知恵や仕組みを集めながら、リアルではこういう形でできますよとか、そういう方法のない場合には、オンラインで実施する。色々な選択肢が増えていく状況を作れるのは良いと思います。

【瀬崎委員】

最初に動画配信などし始めた頃には、模索だったので、一般的に無料っていうのが、すごく出回りました。そのあと有料になりました。やはりやって、続けられないっていう事と、資金がかかるという事が、すごくネックになっていって、無料を有料に変える価値と、チケットを買うという一つの作業にしても、お年寄りの方は、動画をどうやって登録すればいいかわからないというハードルが高くて、結局、参加できなかったという事も結構あったので、そういう仕組みを手助けしてくださるようなものがあたらなと思います。

【廣崎委員】

達成度なしはコロナで中止だけなのでしょうか。

【事務局】

コロナで中止が多いですが、細かい点を申し上げれば、R3年から新規事業のため比較できないというものもございます。

【廣崎委員】

コロナでも他のやり方があるといのは、自分たちがノウハウを持っていればできていることも結構あったのかなっていう風には思っています。

【関委員】

先ほどの芸術文化新人賞の話ですが、授賞式はやられたのですか。

【事務局】

はい。

【関委員】

こういう機会なので、受賞式を配信するとか、もしかしたら今は変わっているのかもしれないですけども。一応写真を撮ったりしますが、受賞式は内輪な感じなので。色々外に広げると、問題があるのかもしれないですけども。

地元で受賞式は嫌ですが、受賞式自体を、広げるみたいな考え方も、これからきっとあるのではないかなと思います。

応募も多くて、応募が増えることはいいことですけども、もちろん応募が増えるということは、落選して恨んでいる人が多くなるので、取れなかった人は、納得いかないと思っているところもあると思うので、増えたら増えたで色々なケアもしなければいけないということだと思います。

【神野委員長】

つまり、選考された理由等が明示されて、落選した人たちもその受賞式を見て、そうかこの人たちはこんな成果を持ってこういうことをやってきたんだとわかれば、納得できるのではないかと。

【関委員】

次もまた、出してみようかなって思いをする事も大事なんじゃないかなと思います。

【神野委員長】

あと、例えば文化事業を何か企画する際に、誰かを選ぶ場合に、色々調べます。

そうするとその受賞歴に書いてあったりする人を検索したときに、千葉市にすごいきちんとしたホームページがあって、受賞式の様子とか、受賞の理由がしっかり書いてあると、ああ、この人でいいかってという形になります。これは否定できないことなので。

【事務局】

予算を文化基金から捻出しており、文化基金が枯渇ぎみという状況で、会場を借りるとなると別途費用が発生しまして、市の施設だから無料というわけにはいかないなので、市長の日程調整させていただいて、応接室で実施しております。これは創設時から変わっていません。

【関委員】

記者インタビュー等が、配信や映像で残っていたりすると、アーティストとしてもこれからのいいプレッシャーになるかもしれないし、お金をかけて欲しいというわけではなく、受賞式というのを、ちょっと変えてみるみたいなことを考えるいい機会だと思いました。

【神野委員長】

私の方から1つ。私も関わってきた、「千の葉の芸術祭」この事業の中で、多分一番予算がかかっているものだと思いますが、Bという評価は私の感覚としても、わからなくはないのですが、Bの評価の理由を聞きたいです。

積極的に広報ができなかった、入館、入場者数を増やすことができないなど、いろいろあったと思いますので、Bという評価に納得はしますが、理由を伺いたいなど。

令和2年度の事業の評価ということでした、皆様すみません。

今日のご意見をいろいろいただいたので、それを生かしつつ、何か他の所管課から得たものも含めて、共有をするということも大事かと思えます。

それでは、最初の議題に関しては、以上にしたいと思えます。

続きまして議題2の令和3年度評価対象事業の選定について、事務局の方からまず説明をお願いしたいと思います。

<事務局説明>

【神野委員長】

ありがとうございました。当初予定されていた基本施策1、2、3それぞれの数が、想定されていましたが、基本施策2の方が、様々な条件、状況の中で、選定が難しくなったことから、基本施策1と3をそれぞれ1つずつ増やすというご提案になっています。

なかなか事業の内容によっては、実施できないということがあるようですので、その辺りを含めていただいた上で、ご意見、ご質問等ありましたらよろしくお願ひいたします。

ご説明いただいた学校へのアウトリーチプログラムに関しては、私の所属している千葉大学でも、教育実習の参観というものが、昨年は数を限って教員が行く事もできましたが、今年は完全に行わないということになっています。今の状況だとちょっと厳し過ぎるのかなという気もしますけれども、千葉市の方で、パラリンピック視察という子供の参観でクラスターが出たりしていて、なかなかその辺は、敏感にならざるを得ないかなという気もしています。

これは余計なものかもしれませんが、千葉市美術館からの説明が、毎年ちょっとあまり評判が良くないので、しっかり担当者に説明をしていただくようお願いしたいです。

この事業で、大丈夫でしょうか。それではこの事業を進めていただければと。

先ほど視察に関してのお話がありましたので、ご希望のある方は事務局の方にメール等で、ご連絡いただけたらなと思えます。

これはすでに何人かの委員の先生方からは、視察希望があるということですので、追加してある場合にはご連絡をお願いします。

公表はここまでとなります。